

# 苫小牧市総合教育会議議事録

会 議 名	令和4年度 第2回 苫小牧市総合教育会議
日 時	令和4年12月23日 自 14時03分 至 15時56分
場 所	市役所本庁舎5階第2応接室
出 席 者	市 長 岩 倉 博 文 教 育 長 福 原 功 教 育 委 員 佐 藤 郁 子 教 育 委 員 齋 藤 智 子 教 育 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 者	教 育 委 員 岡 田 秀 樹
事 務 局	教 育 部 長 山 口 朋 史 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 施 設 課 長 深 山 満 展 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 竹 中 響 紀
協 議 事 項	(1) 苫小牧市教育大綱の改定について (2) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）導入に向けて
会 議 の 経 過 概 要	別紙のとおり

1 開会の宣言 . . . 14時03分
(岩倉市長) それでは、令和4年度の第2回苫小牧市総合教育会議を開催させていただきます。お忙しいところご出席をいただき、ありがとうございます。
前回、9月の会議におきまして、苫小牧市教育大綱の改定案についての、提案、協議をさせていただきました。協議の結果を受けまして、事務方では修正案を作成し、パブリックコメントを行いました。本日はパブリックコメントが終了したということで、それを踏まえて、苫小牧市教育大綱の改定内容について決定をする予定となっております。これから5年間の苫小牧市の教育の根幹となる重要な大綱となりますので、教育委員の皆様にはぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っております。
2 協議事項
(1) 苫小牧市教育大綱の改定について
(岩倉市長) 「苫小牧市教育大綱の改定について」事務局から説明をお願いします。
(教育部長) それでは、苫小牧市教育大綱の改定について、説明をいたします。
前回、9月22日の総合教育会議におきまして、次期苫小牧市教育大綱の素案をお示しさせていただき、基本理念に変更がないことや、基本施策を3本の柱と13の施策に整理をして、期間を5年間とすることなど、皆様にご理解をいただき、おおむねご賛同をいただくことができたと考えております。さらには、11月18日から12月19日にパブリックコメントを実施し、資料にございます2件のご意見をいただいております。
1件目、幼児教育の充実のために保育士の処遇改善を明記してほしいとのご意見でございます。健康こども部と協議をいたしまして、回答を用意いたしました。処遇改善につきましては、令和4年2月から補助金で対応しているところでありまして、今後も継続して処遇改善がされていくものと考えており、それ自体を大綱に明記はいた

しませんが、齋藤委員からもご意見をいただいております幼児教育の充実は、本市において重要な取組となりますので、施策6「学校段階間の連携・接続の推進」に幼児教育の充実を加え、修正をしております。

2件目、グローバルな視野を養うための基本施策がどこに含まれるのか、国際理解教育の推進も項目に上げてはどうかというご意見です。これにつきましては、施策2「これからの時代に求められる資質・能力の育成が情報活用能力や国際理解教育の推進」を意味するところでありますので、この中で、現在策定中の学校教育推進計画の施策項目として、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

また、前回調整中としておりました柱の3つ目、生涯学習に関する施策について、現在策定中の第6次生涯学習推進基本計画と文言を合わせ、生涯学習、社会教育、芸術・文化・スポーツの文言を整理しております。大綱にひもづく主な取組を参考として資料配付しておりますので、ご覧ください。また、3つの柱と13の基本施策の横に、教育の取組、市の関連する取組を記載しております。教育委員会では、13の基本施策を現在策定中の学校教育推進計画、第6次生涯学習推進基本計画によって、また、資料においては、家庭教育や幼児教育、子供、若者支援などのほか、スポーツ施策など、関連計画の中で具体的に組み込んでいくこととなります。この後、皆様からのご承認をいただき決定することとなりましたら、2月議会において報告をさせていただきます。各学校へは毎年度作成する学校経営方針にこの大綱の内容が十分に反映され、教職員一人一人が市の大きな目標の下で働くことができるよう、周知をいたします。広く市民に対しましては、広報でより分かりやすく周知をし、保護者へは市教委の発行する家庭情報紙「ほむすく」等で周知をいたします。この教育大綱の取組を学校、家庭、地域が一体となった取組としたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、苫小牧市教育大綱の説明とさせていただきます。

(岩倉市長) ただいまパブコメ案も含めて、説明がございましたが、ご意見をお一人一人承って伺いたいと思います。感想でも結構ですので佐藤委員からお願いします。

(佐藤委員) 13の柱につきまして、関連する取組のところなどをまとめていただ

きまして、よく分かりました。

2つ目の柱のグローバルな視点で物を考えるというところですが、今、様々な紛争も含めて、文化の違いというのが出てきております。それを理解することができるとして、グローバル化が進められてきたと思いますが、それによっていい点と悪い点が増え、また浮かび上がってきたと思います。国際的な感覚を身につけるといっても必要ですが、各国について学ぶ機会があれば、さらに深まるのではないかと思います。

(岩倉市長) ありがとうございます。

次に、齋藤委員をお願いします。

(齋藤委員) 今回の新しい教育大綱を見せていただきまして、前回のものと比べ、やはりこの5年間で時代や人々の価値観など、社会におかれている状況が大きく変化の中で、時代に沿ったものが結果として出来上がったなと思っております。

まず、前も教育委員会で申し上げましたが、問題になっている不登校対策は教育委員会だけの問題ではなくて、市民全員の問題だと捉えなくてはいけない大きな問題だと思いますし、特別支援教育についても同じだと思います。以前声高にお願いをしましたが、幼児教育について、私も言っておきながら、教育委員会がここまで踏み込むのはいかがなものかなとは思っていました。行政は補助金などに関して踏み込むことはできても、内容までは踏み込むことができません。子供たちが育つ環境は社会の状況も大きくかかわってきますし、今、保護者の働き方なども変わってきており、それによって、いい面もあれば、ひずみが生まれてくる場面もあると思います。そういった状況の中で、これから小学校や中学校へ進んでいく子供たちに教育委員会として何ができるのか。やり過ぎることはないと思います。自分たちの職権を超え、小学校の接続だけではなく、幼児教育の充実に努めていけたらなと思いますので、この文言が入ったことは、私にとっては、本当に感謝したいと思います。以上です。

(岩倉市長) ありがとうございます。

次に高橋委員、お願いします。

(高橋委員) 5年間の苫小牧市の教育大綱は、この時代に合わせた形で何を重点的

に取り組むかということだと思っております。今の家庭環境や学校環境というのは目まぐるしく変わってきていますし、デジタル化社会により急激に私たちの生活が変わってきている中で、子供たちの学校を取り巻く生活や風習なども変わっております。私たち自身もこの現状について、理解するとともに、教員自体の働き方改革で、どうしても昔のように時間的な融通が利かない中で、子供たちを取り巻く環境でのかかわり合いを、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）など、教育委員として広く様々な方のお知恵を借りながら、全体でできることをつくっていかねばいけないと考えております。この課題にすぐ取り組めるよう、私たちの体制についても検討し、あとはどういう形で実践、実施をしていくかということだと思っておりますので、今後とも努力をさせていただきたいと思っております。以上です。

（岩倉市長） ありがとうございます。

最後に教育長、お願いします。

（福原教育長） 私は教育委員ではなく、教育長という立場でございますので、この教育大綱を委員の皆様の見解をいただいて修正する中で、市教委の事務局ともいろいろな話をし、今、ここにたどり着くことができたと思っております。

あくまでこの教育大綱というのは首長が定めるものということで、地域の実情に応じた、教育に関する総合的な施策の大綱と理解をしております。9月の会議でも話しましたが、今後の5年間で教育大綱の基本理念である「未来の社会をつくるひとづくり」の目指す方向性がどうして目指せるのか、大綱での基本施策の下に上げられる具体的な施策だと思っておりますし、この学校教育推進計画は市教委がつくるということになりますので、しっかり取り組んでいきたいと思っております。そういった中で、市教委で作成している学校教育推進計画では、現在道教委で作成している教育推進計画を参酌する形で、検討を進めております。私自身、道教委の学校教育推進計画の会議のメンバーになっておりまして、会議に二、三度出ており、道の推進計画の策定状況についても注目をしております。文部科学省が宣言をしている子供の体験活動推進宣言というものが、体験活動を推進するため、経済界と連携した取組を推奨

しておりますが、コロナ等いろいろな要因もあり、今の子供はリアルな体験が不足しているという指摘がございます。また別な調査では、高校時代までに地元企業を認知しているほど、出身市町村への愛着が強く、地元へのUターンを希望している実態があるという調査結果が出ていることから、道教委に対して、道がつくる教育推進計画の位置づけなどに関する考えを質問いたしました。それに対して道教委の回答としては、子供たちが自分の地域をよく理解し、地域と連携しながら取組を進める体験活動の重視を考えていること、また、ふるさと教育の充実についても推進していくといった回答でした。私としても、苫小牧市が持つ特徴、自然や産業、ダブルポート、物流、物づくり、エネルギー等々の産業、例えば、今推し進めているゼロカーボンの取組なども、いかに子供たちに苫小牧が持つポテンシャルを知ってもらえるか、それをいかに教育に取り込むことができるかについて考える必要があると思っており、この教育大綱にひもづく苫小牧市学校教育推進計画の中で具体的な取組を今後明示していきたいと考えております。以上です。

(岩倉市長) 一通りご意見をいただきまして、ありがとうございます。

僕が市長になったときにいろいろな議会での答弁でも枕言葉として、時代の転換期中で、ということをお前提にしておき、時代の大きな転換期やドラスチックな転換期というふうに見なければならない状況の中で、特に義務教育課程の子供たちにベストな教育環境というのは何なのかということをお、過去の延長ではなくて、これから向かう目標に向かってつくっていかなければならないと最近思っております。今までの延長で教育を考えているのでは同じことしかないのではという疑問があり、では、子供たちにベストな教育環境というの、少なくとも学校教育の中では何なのか、どういう目標を立てるべきなのか、どういう目標を立ててチャレンジすれば時代に近づくことができるのか、しかも、その時代がこれから10年後はどうなっていくのかという読みも含めて、非常に難しい時代ではあります、時代の変化、あるいは時代の進展とともに、環境整備のためにスピード感を持って対応していくということがこれから求められると思っておりますので、そういった時代のトレンドを含めて、この新しい教育

大綱に沿った教育行政というものをこれから進めていきたいと思ひます。それには必ずこれからの目標に向かつて子供たちにベストな教育環境をどうつくっていくのかという視点が大事だと考えておりますので、決して過去の延長で教育を語ってはいけな  
いとすら思っておりますし、そういう観点も含めて、この教育大綱をしっかりと自信を持って教育委員会として世に出してほしいと思ひます。教育部長、自信はあります  
か。

(教育部長) はい、自信があります。

(岩倉市長) 池田参事からも一言お願いします。

(教育部池田参事) 子供たちのために具現化していくことが指導室の仕事だと思ひ  
ますので、部長についていながら頑張りたくと思ひます。

(岩倉市長) それでは新しい苦小牧市教育大綱について、パブコメも含めて説明が  
ありましたが、そのように決定をさせていただいてよろしいですか。

(一同「はい」の声)

## (2) コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入に向けて

(岩倉市長) 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入に向けて」に  
ついて事務局から説明をお願いします。

(学校教育課長) それでは、私のほうから、コミュニティ・スクール(学校運営協  
議会制度)の導入につきまして、情報共有等も含めて、お配りした資料に沿って説明  
をさせていただきます。これ以下のコミュニティ・スクールをコミスクと呼ばせてい  
ただきますので、ご了承いただければと思ひます。それでは、資料に沿って説明をい  
たします。

まず、1のコミスクの目指すところについて、コミスクとは、学校運営協議会とい

う合議体であり、これを設置した学校のことをいいます。市教委ではこのコミスクを
市内全ての小・中学校に導入していくことで、準備を進めているところでございます。
平成29年の4月に法律の改正がありまして、この学校運営協議会を置くように努め
なければならないとうたわれました。それを受け、令和2年の2月に苫小牧市学校運
営協議会の規則を制定し、同じ年の4月から開成中学校区と勇払中学校区で学校運営
協議会を立ち上げて、コミスクを導入しており、令和5年度から全ての学校に導入し
ていきたいと考えております。その規則につきましては、資料の後ろに添付しており
ますので、後ほどご覧いただければと思います。この学校運営協議会では地域住民や
保護者、有識者などで構成され、委員の皆様からの意見を学校運営に活かしながら、
幅広い地域住民の参画を得て、学校と地域が一体となり、未来を担う子供たちの学び
や体験を充実させ、特色ある学校づくりを目指していくこととなります。
次に、2のコミスクの仕組みについてご説明させていただきます。まず、1番の特
徴といたしましては、学校運営に当たって、地域の声を学校に届け、それを活かすこ
とができること、また、学校運営の基本方針などを総合的に評価するということが特
徴でございます。地域の意見を踏まえて、地域の特色を活かした教育などを実践する
こと、例えば地域の力を借りて放課後の子供の居場所づくりを行うといったこともで
きるようになります。学校と地域が力を合わせることによりまして、互いに信頼し合
い、取組の成果を分かち合いながら、それぞれのやりがいを感じ、生き生きと輝く存
在になること、さらに役割分担をしながら、それぞれが主体的に取り組むことで、よ
り成果が高まり、互いに達成感を味わうことができると考えております。
次に、2ページ目、3の苫小牧市中学校区別生徒指導連絡協議会、これを校区連と
言っておりますが、この校区連と学校評議員制度の学校運営協議会への一本化につい
ては、学校運営協議会の委員の構成がこの校区連とほぼ同じような構成になります。
協議会を新たに設置されることで、同じような団体組織が重複することになり、町内
会やPTAの方々など、負担が増えてしまうこととなりますので、類似した組織を一
本化できないか、関係部署と検討を重ねてまいりました。そこで、この校区連が所管



<p>している青少年課、健康こども部と協議を行いながら、この校区連と学校評議員制度を一本化し、今後は学校運営協議会において、規則で定める委員を15人に絞り、学校運営協議会委員として活動を行っていただくこととなります。校区連とこの評議員制度を一本化することで、これまで校区連が担ってきた子供の見守り活動や非行防止活動、安全対策といった活動、そして、学校評議員が担ってきた学校評価をこの学校運営協議会で実施することができるようになり、地域をはじめ、PTA、学校の負担軽減につながり、効率的な活動ができるものと考えております。</p>
<p>次に、3ページ目「4の所掌事項及び組織体制、活動内容」についてですが、まず、運営につきましては、苫小牧市学校運営協議会の規則に基づいて行うこととなります。所掌事項につきましては、規則の第3条でうたっており、1つ目が「学校の運営に関する基本的な方針を承認すること」、2つ目が「基本的な方針に基づく学校の運営及び運営への必要な支援に関する協議の結果に係る情報を提供すること」、3つ目が「学校運営に関する事項についての意見に関すること」、4つ目が「学校の職員の採用その他の任用に関する事項についての意見に関すること」、5つ目が「毎年度1回以上、学校の運営状況について点検及び評価を行うこと」、以上が所掌事項となります。この所掌事項の中に学校の職員の採用や任用などについて意見できることとありますが、これは学校運営を充実していくために必要な教職員の人事について、教職員の処分を除き、市教委を通じて任命権者の道教委に意見を述べることができるというものでございます。これは全国的には事例が少ないようなのですが、過去にあった事例といたしましては、社会教育主事などの資格を有する教員の配置の希望や、部活動の専門的な指導ができる教員の配置を要望するといったものがあつたと聞いております。ただ、現在導入している、開成や勇払のほうではこのような話は、今のところはお出てきておりません。</p>
<p>次に、組織体制についてですが、これにつきましては規則の第4条で規定をしており、委員は15人以内で組織することと、構成につきましては、保護者と地域住民、学校運営に資する活動を行う者、教職員、学識経験者、行政機関としております。任</p>

期につきましては、同じく規則の第6条で、2年としております。活動内容につきまして、協議会の開催については年3回から4回実施してもらい、学校運営の基本方針の年間計画や業務内容、重点活動項目などを協議、承認を行っていただくこと、また、取組状況の進捗報告や確認、年度末には学校運営の評価と改善策の協議というものを行っていくといった流れになると考えております。基本的には校区連活動も含めまして、今まで行っている学校を中心に実施していくことになると思っておりますが、今まで以上に地域と密接な教育活動を実施、実践していただくことを考えております。

次に、4ページ、コミスクの活動事例を幾つか写真を載せて紹介をしております。

まず、上側の勇払地区の取組になります。小・中の合同でのごみ拾いや、勇払の伝統芸能継承活動として、藍染め体験や千人隊踊り、また、地元の企業との連携による職業体験や、琴を教えられるコミスク委員の方をゲストとした琴の学び、勇払資料館もありますので、ここの職員も講師として呼び、機織り体験といったこともやっていると伺っております。

次に、開成中学校区の取組状況について、公開授業の参観や、地域との合同の防災訓練、近隣にしみず保育園ありますので、保育園との合同での避難訓練、町内会のお祭りのボランティア活動、新聞報道にもありましたが、今年度、海洋キャリア教育ということで、海上保安庁や港湾輸送業の海の業務についての教育など、そういった活動も行っております。そして、特徴的なのが、苫小牧東高校もこの開成中学校区になりますので、東高校もメンバーに入っていることから、生徒による清水小学校の児童に対する学習サポートを夏休みにやっております。今年度につきましては、夏休みの時期がずれてしまい、高校と合わなかったため、実施できていないと聞いておりますが、これは毎年実施している事業と伺っております。その他の自治体の活動事例ということで参考までに記載をさせていただいております。事例としてよくあるのが、地域の方を呼んで昔の遊びを体験し学習する、昔遊びの体験です。そして珍しいものとしては月に1回、地域の方々と校長室で懇談会をしているということもあるそうです。

<p>最後になります、6ページの「コミスク導入への期待」ということで、コミスクが中学校区ごとに組織されることにより、小・中連携教育といたしまして、学校教育力向上マスタープランでも示しておりますが、苫小牧ALL-9、苫小牧型小中連携教育の充実、そして、校区連と評議員制度の一本化による効率的な活動の実現と、地域やPTA、学校の負担の軽減と、さらなる地域と密接した学校運営の実現というものを記載しているところでございます。</p>
<p>説明は以上になります、令和5年度からのコミスク導入に向けて、現在各学校において委員の選出など、体制整備を行っております。次代を担う子供たちの健やかな成長に地域と学校が一体となって取り組むことで、地域コミュニティの醸成につながることも期待しているとともに、地域と共にある特色ある学校づくりというものを目指していければと考えております。</p>
<p>(岩倉市長) それでは、コミスク導入、あるいはコミスクの展開についてもご意見をいただければと思いますので、今度は福原教育長からお願いします。</p>
<p>(福原教育長) このコミスクについてですが、来年4月から全校区、中学校区で導入するというので、これまで担当が各地域に入り、説明を重ねているところでございます。中学校の数や町内会の数が異なるところもありますので、1つの校区に複数の町内会があったり、1つの町内会に複数の中学校区があったりするなど、各校区がそれぞれ構造的に複雑なところもありますが、その辺も含めて、これまで担当のほうで丁寧な説明を行ってきたところでございます。地域の協力なくして、学校運営は成り立たないという現代社会の実情と感じており、学校、地域双方が共通認識を持って、コミスクの必要性を理解することが必要であり、ここがスタートポイントだと考えております。これまで開成中、勇払中で先行導入してきた経験値もありますし、その2校でのいろいろな課題等を解決してきたと思っていますので、そういった経験を全ての校区で共有して、スムーズに導入されることを願っております。校区連はありましたが、開成、勇払の2校区以外は、制度化されて初めて導入する取組でございますので、それぞれの校区でいろいろな課題が出てくるのが予測されますが、それ</p>

<p>それぞれの地域事情を踏まえて解決を図りながら、この制度が定着するよう、市教委としてもしっかりとサポートをしてまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
<p>(岩倉市長) ありがとうございます。</p>
<p>次に高橋委員、お願いします。</p>
<p>(高橋委員) 先ほども少し触れましたが、これからの時代、特にコロナ禍が始まってから、やはり人というのはお互い顔を合わせて話をする事で理解を深まるものだと私は認識をしております。そういった意味で、地域住民や保護者、有識者、学校が今、どのような課題を持って取り組まれているか、もしくはどのような形で自分たちが参画できるか、お互いがそのことを話合うことによって、子供たちにいい影響を与えるものだと思っております。先ほど教育長がおっしゃられていた、民間企業自体に子供たちがこれから関わり合いを持つ、今18歳で成年になっており、高校時代の中で社会認識を持つことが非常に重要だと言われている中で、小・中学校の中で自分たちのまちがどのように運営をされているのか、また、どのような大人たちがいるかということを、改めてこのようなコミュニティ・スクールが進むことでお互いの相互理解につながって活性化することを望みます。以上です。</p>
<p>(岩倉市長) ありがとうございます。</p>
<p>次に齋藤委員、お願いします。</p>
<p>(齋藤委員) まさにこのコミュニティ・スクールというのは、この時代の変化に即した制度だと思っております。少し前までお勉強は学校で、家の生活やしつけについては家庭でというように、はっきり分かれていましたが、加速する核家族化とともに、共働きが当たり前の時代になってきて、なかなか家庭だけの価値観や、学校だけの学びだけでは子供たちを育て切れない、やはりこれからは地域で子供たちを育てていく時期、時代だと痛切に私自身も感じております。たくさんの地域の人のアイデアや価値観が入ることで、子供たちの学びの場も広がりますし、また同時に、地域の方々も、市民、その町内、まちの一員として、学校の体制や考え方、運営づくりに自分たちの考えを参入することができるという思いから、地域の活性化にもつながると</p>

思います。先ほどもありましたが、今、勇払エリアと、開成中エリアを先行して行っており、様々な課題ももちろんあるかとは思いますが、一つ一つの問題を解決しながら、このコミュニティ・スクールがよい方向に進んでいったらいいなと願っています。以上です。

(岩倉市長) ありがとうございました。

最後に佐藤委員、お願いします。

(佐藤委員) コミュニティ・スクールの仕組みの中で、学校と地域が一体になって役割を分担するとありまして、地域の中には家庭ももちろん含まれると思いますが、そこに教育委員会が入っている図があり、三つ巴の形で運営していくということが分かりました。

この中で少し気になりましたのは、校長先生の権限というか、決定権、それがどの辺りまで認められるのか、それによって、運営の仕方も変わってくると思います。基本的には学校のことは校長先生が決めていくのがよろしいかと思ひまして、前々から話していることではあります。予算を校長先生のほうで持っていれば、もっと様々な意見が出てくるのではないかなと思います。

(岩倉市長) これについて、今のコミスクにおける校長の権限というものはどうなっているのでしょうか。

(学校教育課長) 校長先生もコミュニティ・スクールのメンバーとして入っておりますが、今までのとおり、委員の方々にお示しし、諮って、そこでもんでもらうというような形になります。学校運営についての基本方針自体は校長先生が決めるというような形になりますが、運営に係る予算的なことについては、今まで導入していた2校区に関してもありませんでした。実は今後いろいろな活動を幅広くやっていただきたいということもあって、総合的な学習などに係る財政的な支援については考えておりましたので、各学校でのそういった活動に係る費用などについては新年度から支援していきたいと考えております。

(佐藤委員) わかりました。ありがとうございます。

<p>(岩倉市長) 少し逆説的な話から言いますが、例えば地域と家庭と学校という概念</p>
<p>はかなり以前からあり、昔は町内会の地域子供会というのが機能していましたが、そ</p>
<p>れがだんだんと子供の数が少なくなってきたことにより、大人が高齢化し、地域の子</p>
<p>供会というものが非常にアンバランスになってきています。この地域と家庭と学校と</p>
<p>いう連携の中で、子供たちの教育環境がレベルアップするというのは非常にいいこと</p>
<p>ですし、それを今まで制度がなくてもできていた学校区もありますので、数年前から</p>
<p>議会でも質疑がありましたが、制度化することによって、促進させる要因になるのか、</p>
<p>それとも、ブレーキがかかってしまうのか、あるいは、逆に言うと、校長の裁量、校</p>
<p>長はメンバーの一人ですが、実質的に校長のリーダーシップがかなり影響してきます</p>
<p>ので、そこは校長のリーダーシップや経験、あるいはどういう道をたどってきたかに</p>
<p>よっても変わってくるだろうなど思いながら、仮にブレーキがかかるようなところが</p>
<p>あっても、制度化することによって、やらなければならないというモチベーションに</p>
<p>繋がっていくのかなと思っていますので、ぜひ期待したいなと思っています。</p>
<p>事務局からは、今、皆さんの意見聞かれて、何かありますか。</p>
<p>(教育部長) 貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。</p>
<p>コミスク制度について、やはり社会が複雑化する中で、将来の宝である子供たちを</p>
<p>どうやって地域全体で育てていくかという、そういった大きな視点に立って制度を進</p>
<p>めていかなければならないなと思っています。今、市長からもありましたが、校長</p>
<p>先生のリーダーシップのような、地域の中でしっかり育てていくためにも、苫小牧の</p>
<p>人材も育てていかなければならないと思っていますところ。以上です。</p>
<p>(岩倉市長) それでは、そういった方向に向けて本格導入ということで、経過を見</p>
<p>ていきたいと思えます。</p>
<p>それでは、今日の議題はこれで終わりますが、その他に何かありますか。</p>
<p>私からなのですが、今、若い人など多くの方がコミスクのように省略して短くいう</p>
<p>事が増えていると思います。議会でも最初の段階からコミスクというのが質疑で出て</p>
<p>きておりましたが、教育上言葉を省略して使うというのは、どうなのでしょう。</p>

<p>(教育部池田参事) TPOに応じて、使い分ければいいのではないかと思います。</p>
<p>ただ、コミュニティ・スクールという言葉を知ったうえで、コムスクと使うのはいい</p>
<p>と思いますが、本来の意味を知らずに、省略した言葉を続けていくことはいかがなも</p>
<p>のかと思っております。</p>
<p>(岩倉市長) 内輪でコムスクと言ってもいいと思いますが、少なくとも教育委員会</p>
<p>などのオフィシャルな場合にはコミュニティ・スクールなど本来の形で使っていた</p>
<p>方がいいのではないのでしょうか。佐藤委員はどうお考えでしょうか。</p>
<p>(佐藤委員) 私自身、最初聞いたときにびっくりしたのは、「リア充」という言葉</p>
<p>です。リアルに充実しているという意味みたいなのですが、皆さん平気で使っており、</p>
<p>その言葉を教育大系の学校や教育学部があるところの学生が使っていて、先生も使っ</p>
<p>ているというところがありました。ですが、やはり合わないものは出てきても消えて</p>
<p>いっているので、あまり気にする必要はないのではないかと思います。</p>
<p>(岩倉市長) 齋藤委員はどう思いますか。</p>
<p>(齋藤委員) 私も若者言葉が全然分からず、若い世代にばかにされる感じなのですが、</p>
<p>今、私の職場でよく聞くのは、「サブスク」という言葉です。おむつのサブスク</p>
<p>など、サブスクリプションを略したものかと思うのですが、片仮名や英語を短くしが</p>
<p>ちなのかなとは思いますが、その英語の意味をきちんと理解したうえで、日本語の社会</p>
<p>に適合させるために短く省略することは、仕方がないことだと思うのですが、それが</p>
<p>本当に意味を理解して使っているのかどうかについてはわからないなと思っておりま</p>
<p>した。</p>
<p>(佐藤委員) リア充などについては教育現場まで入ってきていたので、リアルに充</p>
<p>実という、英語や横文字と日本語を混ぜて使っていることがすごいなと思いました。</p>
<p>こう言った言葉がこれから出てくるのだろうと思っていたら、やはりどんどん出てき</p>
<p>ましたが、今の印象としては片仮名や横文字を少し短くして、片仮名4文字程度に収</p>
<p>めているような気がいたします。</p>
<p>(岩倉市長) そういった言葉を子供たちが結構使い始めていることに対して、高橋</p>

委員はどう思いますか。

(高橋委員) 言葉にはセンスや流行、こういう言い方をすると格好いいというような風潮が、昔から多分あったかと思しますので、その一部なのかなという認識です。私たちが作るに当たっては、そんな格好をつけて話をする必要がないので、きちんとした言葉を使うべきかと思えます。言葉は人に伝えるためにありますので、伝わらない言葉を使うのは、僕は駄目だと思うほうなのですが、子供たちがその言葉をお互い理解しているのであれば、それはそれで認めてあげるべきだと思いますので、どちらでもいいと考えております。

(岩倉市長) 教育長はどうお考えですか。

(福原教育長) 英語の場合もありますが、日本語でもあると思います。教育長になる前ですが、議会の答弁の中で意味を分かっている者同士が話している時に、単語を短くした言葉を使うのであれば、議員が替わるたび、初めに以降何というかと、添えるべきと言った記憶があります。今日、学校教育課長もそういう言い方をしていました。要は議会であれば傍聴者やマスコミの方など、今はインターネットで誰が聞いているか分からない世界の中ですので、さっき市長も言いましたが、分かっている者同士で話しているのであればいいとはいえ、校区連も一つだと思いますが、サブスクやコミスクも、やはり先ほど池田参事も言っていたTPOが大切なのかなと思いました。ただ、市長がおっしゃったように教育としてどうかと言われたときには、やはりしっかりと本来の意味を踏まえさせる必要はあると思いました。

(岩倉市長) 少なくともこのコミュニティ・スクールについてはフルネームで呼ぶべきではないでしょうか。この言葉を知らない方にコミスクと言っても、全然分からないと思いますので、教育委員会として検討して、この言葉の整理をどうしていくのか、いろいろな略語や短縮語が氾濫しているのでそろそろ考えないといけないと思います。

(佐藤委員) 結局、コミュニティの捉え方がしっかりしていれば、あまり誤解がないと思います。宗教だとか民族のことも絡めてコミュニティで分けてしまうという世



<p>界もありますが、地域という意味のコミュニティなので、そこをしっかりと周知していくとあまり誤解はないように思います。</p>
<p>(岩倉市長) コミュニティという言葉の前後のフレーズで、意味が代わってくると思いますので、正確な名前ではなくても、さらに略語にして分からなくするというのは、少し抵抗あります。教育部長はどう思いますか。</p>
<p>(教育部長) 教育委員会から発信するときはなるべく気をつけながら、今ご指摘のあったコミスクや、ほむすくなど、いろいろな場面で短縮して表現している部分がありますので、そういったときに聞いている方がより分かりやすい形をしっかりと整えて発信をしていきたいと思っております。このコミスクについて、国の文科省のほうでこういう表現をしているところもありますので、そこを市教委として受けとめ、どう発信していくかというところはしっかりと考えていきたいと思えます。</p>
<p>(岩倉市長) 文科省のほうにも、確認した方がいいかもしれませんね。</p>
<p>学校では、先生方の受け止めはどうなっているのでしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) 先ほども出ていましたが、子供たちは非常に短く、それも横文字でいろいろな角度から僕たちの分からない言葉をしゃべることが多いように思います。やはり教師としては、いろいろな授業をする際に、それはそれとしても、やはりきちっとした美しい日本語などの、言語環境は整えていくことが、学校では大事だと思っております。</p>
<p>(岩倉市長) 短縮したほうが通じて、フルに言ったら通じないということはないと思いますので、やはり教育委員会から発信するのは、きちっとした正確な言葉で発信しましょう。</p>
<p>それでは、事務局から他に何かありませんか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>

